



# Yonago East Weekly

●創立/1968年4月24日 ●事務所/米子市西福原1-1-55 ホテルサンルート米子 Tel (0859) 32 - 5531  
 ●例会日/水曜日12:30~13:30 ●例会場/ホテルサンルート米子市西福原1-1-55 Tel (0859) 33-0911  
 ●会長/尾沢三夫 ●幹事/永見吉平 ●会報/伊藤慎哉

## 出席報告

会員数80名

## 今週のお祝い

**結婚記念祝:** 7日:足立博俊君、杉本真吾君、植田三男君 12日 木美俊彦君 17日:江原保君 20日:長棟信泰君

## 会長挨拶

皆様こんにちは。昨日、米子市議会が閉会しました。すべての議案が可決もしくは否決されると言う訳です。皆様もご存知だと思いますが米子市の事件のことですが焼却場建設のことです。談合事件です。

高橋弁護士を中心に民間が訴訟をしたということです。15億円が米子市に入りました。弁護士費用として1億円の請求がありました。そのことに対し拒否をしたのですが、先日それに対しての米子地裁から判決が出ました。内容は米子市に8000万を支払いの判決でした。それを控訴するには2週間の間で結論を出さないといけないため、臨時議会を開き、支払うのであれば本年度予算に加えなければならないし控訴するにしても議会の承認を得るということです。色々調べながら進める必要があると思います。

それと今回の議会では米子市民基本条例が可決されました。これは市民憲章のような条例にしたと言うことです。それと私から提案したのが緊急事態基本法です。内閣並びに政府に対し米子市議団が意見書を出すことが採択されました。災害時に緊急事態基本法がないために色々な障害があります。テロ、外部からの侵略等の時に平和憲法は役に立たないと言うことです。国民の生命、財産、安全を守るには緊急事態時に宣言が出来る法律を作る必要があると思います。災害や近隣国の中国、北朝鮮、ロシア等が日本の隙を狙っている状況で

す。そのような時の対応が遅いと取り返しがつかなくなると思います。と会長挨拶が議会報告のようになりました。

最後に例会後に歴代会長会を開催したいと思います。内容はチャレンジ100に対する色々なご相談です。ご協力をお願いします。

## 幹事報告

1. 森本会員今月末退会
2. 4/15大山春の一斉清掃の参加お願い
3. 森本信一ガバナー・ノミニー事務所開設のご案内
4. 4月ロータリーレート1ドル82円
5. 例会変更のお知らせ  
米子中央RC 4/12(木)移動例会 ビジター受付あり  
鳥取北 4/10(火) お花見例会 "

## 今後の予定

- 4/ 8 地区協議会・事務局員研修会
- 4/11 第6回家庭集会
- 4/15 大山春の一斉清掃
- 4/22 IM(境港市民会館)
- 5/ 2 休会(定款第6条)
- 5/23 新旧引継ぎクラブ協議会

## 次回プログラム

- 4/4 「ロータリーの友」紹介 小田雑誌委員会リーダー
- 「4月4日はどらやきの日」 丸京製菓(株) どらやき担当 小林 氏
- 4/11 「未定」 (株)DARAZ コミュニティ放送 代表取締役社長 富田 寛 氏



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

Reach within to embrace humanity

こころの中を見つめよう 博愛をひろめるために

## 《プログラム》

### 「花粉症について」

荒川圭三 会員



(花粉症とは)よく外来で「鼻炎です」と言って来られる患者様がおりますが、本当は鼻炎というのは鼻が炎症を生じたらすべて鼻炎です。鼻炎の種類は多数あります。この中で花粉症は季節性アレルギー性鼻炎のこととさせていただいたら良いと思います。

過敏性非感染性鼻炎のうち複合型(鼻過敏症)はアレルギー性と非アレルギー性に分かれ、アレルギー性には好発時期から通年性と季節性に分かれ、前者の多くは室内ダスト、ダニアレルギーで、後者のほとんどは花粉症です。血管運動性鼻炎はアレルギー性鼻炎と症状は類似するがアレルギー検査でアレルギーが証明されないものを言います。

アレルギー性鼻炎は1965年前後から増加し始め、1970年に入り数倍に急増し、なお増加を続けてる。アレルギー性鼻炎増加の原因は抗原量の増加が第一と考えられる。気密性の高い建築様式による新建築資材を用いた西欧式暖房、家具などを備えた建築が盛んになるにつれ、室内ダストでダニが増加したことが原因にもなると言えます。1960年後半より花粉産生力の強い樹齢30年以上のスギ林面積が多くなり、1970年前半頃より患者数が急増しました。アレルギーの検査にはアレルギー性か否かの検査と原因抗原を主とする原因の検査があります。問診、鼻鏡検査、鼻副鼻腔X線検査、血液・鼻汁好酸球検査、血清特異的IgE抗体定量が、後者には皮膚テスト、血清特異的IgE抗体定量、誘発テストがあります。

医師とコミュニケーションをよくし、治療への意欲、病気や治療法への理解、医師への信頼を促進させ、互いに診療におけるパートナーとなるべきである。具体的にはアレルギー性鼻炎のメカニズム、治療法、合併症、予後、薬の使用法、検査結果を十分説明し、説明書を与え、日記の記入、規則的通院、日常生活の改善、抗原の発見と除去などに積極的に患者が協力するように要求する。患者が医師と協同で治療プログラムを作り、治療経過も協同で検討することです。

ちなみに松江市の花粉の状況ですが昨年は非常に多くの花粉が舞っていたのですが今年は非常に少ないと報告がありました。最後になります症状が出ましたら、私の医院までお越しください。

### 追記

花粉症の患者さんの診察等が長引いた中、駆けつけて下さった荒川圭三会員、誠にありがとうございました。

荒川圭三会員が来られるまで場をつないで下さった野坂裕一プログラムリーダーの見事な連携プレイの卓話を聴かせていただきました。お疲れ様でございました。

